

第7回全国ダンプ交流集会 =各地の取り組み報告④=

埼玉南部

職場で組合を結成し 労働条件の改善を推進

三與木剛さん



埼玉南部支部には5ヶ所の合材プラントで組合が結成されています。いま支部全体で取り組んでいるのが、前田道路朝霞分会に対する15年以上にわたるたたかいです。経過としては、朝霞工場下請会社であるI・T・Oに入っているダンプ労働者が単価及び労働条件改善を求め、29名で組合を結成しましたが、その後、I・T・Oから不当労働行為を受け

てきました。そういった攻撃の中でも、日々就労してきましたが、今度はI・T・Oと当時の朝霞工場の工場長による配車差別が始まり、それを発端にI・T・Oが別会社をつくり、朝霞分会の仲間たちの仕事に奪われてしまう事態になりました。組合は前田道路に対し、不当労働行為の撲滅とI・T・Oへの指導を訴えました。長きにわたり宣伝行動や本社交渉をおこない、少しずつ改善の糸口は見えてきてはいますが、現在もI・T・Oは不当労働行為はやめず、配車差別も続いていきます。また、去年は防災事故が発生し、I・T・Oと前田道路

路に対しても責任追及をしましたが、未だに対応しようとしていません。南部支部は全国ダンプ合材委員会や関東ダンプの支援も受けながら、前田道路本社や支店、I・T・Oに対し雇用責任を追及し、配車差別根絶に向けてたたかっています。朝霞分会の仲間たちは、配車差別によりサラリーマンと同等の売り上げしかありません。厳しい状況の中でも仲間同士が助け合い、たたかいを続けています。全国の仲間からの支援もお願いしたいと思っています。他の分会では、去年の春闘期にダンプの歴史の中で画期的な成果があります。私自身が働いている大成ロテック浦和工場では12名の仲間が組織を結成しています。春闘の中で、雇用責任の追及と責任を負わせる意味を含め、特別労災加入保険料を元請、下請に負担させる要求を提出しました。当初は難色を示した下請でしたが、労災の必要性や労働者を抱える責任を理解し、保険料の半分を下請が負担するという合意ができました。

員が労災保険に加入しました。その他にも交渉中にリアパー問題が取り上げられ、下請から高速道路の工事においてはリアパーがないと就労できないという話が出され、リアパーの装着を提案されました。しかし、可動式バンパーの費用は安くても24万程度と、負担は大きなものです。分会の仲間と相談しながら下請の要請に応える立場を表明し、交渉を重ね、取り付け費用の責任はおたが

兵庫ダンプ

強大な組合を実現し 要求闘争を前進させよう

江田正さん



兵庫ダンプ支部のとりくみとして、通年最も重視してきたことについて報告をいたします。それは国民の安心・安全を守る運動と使用促進の運動を結合して追求していくことです。ご承知のように、現場では警察による過積載ダンプの取り締まり。そして発注者への告発と、使用促進の指導要請をしてまいりました。国民の安心・安全を守ることに使用促進を結合し、粘り強く追求する立場を維持して、取り組んでいくことが重要だと考えています。

そしてまた、一番われわれが興味のあるダンプの単価につきましては4万以上要求としておりますけれども、妥協しなければならぬ現場もあります。しかし、そういった現場においても、突っくだ

い背負うことに、下請ダンプ労働者と折半で合意しました。埼玉南部には職場で働く仲間が60人以上組織されています。かつして順風満帆ではなく、たたかいはまだまだ続けていかななくてはなりません。すべての仲間が知恵と力を結集し、仲間とともに団結し、ダンプ労働者の現状を打ち破るために、しっかりとたたかいていきたいと思っています。全国の仲間の皆さん、ともにがんばりましょう。(拍手)

栃木ダンプ

仕事と家族を守る為 組合を大きくしよう

工藤経見さん



栃木のダンプの実態と、私たちが避けては通れない組織拡大のとりくみを発言します。栃木といえば、全国一の生産量を誇ります「いちご」と「かんぴょう」で有名な所ですが、実は建設工事などに欠かすことのできない砕石の生産量が全国一です。その砕石は、主に首都圏などの生コンプラントに運んでいます。私も毎日、深夜1時に起きまし

て、横浜や千葉など、また2回目は埼玉方面の生コンプラントなどに砕石を運んでいます。仕事を終え帰宅が夕方5時から6時頃、1日の走行距離は五〇〇キロ前後にもなります。このように過酷な労働条件に加え、排ガス規制、不況、また燃料高騰で収入も減り、生活ができないとダンプを降りる人が絶えません。

このような状況から、栃木でも組合員数は減少していきます。このまま減少が続けば、第一に組合自体の財政不足になりかねないと思います。数こそ力なり。組織力が弱くは国や県、またスーパーゼネ

コンなどに働きかけても、思うように私たちの声は反映されないと思います。栃木支部ではいろんな運動をしていきます。少し紹介しますと、まずは建交労の知名度アップに県内各所の主要な交差点などに立て看板を設置、また組合員との交流を深めるためにボート大会やゴルフコンペも開催しています。他にも、分会ごとではありますが、バレーボールもやっています。私は栃の木という分会に所属しています。組合員の職業は大工さん、ダンプ屋さん、トラック持ち込みと様々です。私は年に1回は必ず分会でバ

ーベキューをやるようにしています。また、組合員の家族にもできる限り参加してもらっています。それは、建交労を家族にもわかしてもらいたくてもあります。栃の木分会の仲間たちも、組織拡大の問題はよく理解してくれ、積極的に協力してくれています。この1年間に栃の木分会では15名、組合員が増えました。現在34名います。最後になりましたが、私たちが取り巻く状況はさらに厳しくなると思えます。成り行きまかせでは、生活は楽にはなりません。要求も前進しません。組合まかせの組合員じゃなく、1人ひとりが組合員として自覚を高めることも、また重要なのではないのでしょうか。私たちの生活を守るために、家族を守るために、ともにがんばろうではありませんか。(拍手)

けではなく、労働組合の建交労として、ある一定の柔軟性をもって解決していく。その中で、お互いゼネコンの担当者も労働者という意識の中におられるわけだと私は思います。それを、根気強く要求に結びつけていけば、必ず何らかの形が出てくるだろうと実際、兵庫の方ではそのような方針をとりまして、試みてやってきました結果、以前に比べるとプラスの形が出てまいりました。しかし、あまりにもひどい業者・ゼネコン等に関しては、やはり追及していきま

す。組織拡大、現在では昨年の大会から組合員の純増は約30名になりました。6月から8月の中にかけて、80台から一〇〇台の新たな就労が可能となつてまいりました。大会までに純増で組合員を一〇〇名が目標として、がんばって奮闘しているとどこかあります。この組合員増大というのは、やはりわれわれの使用促進と組織拡大というのは切っても切れないつながりがあるましよう。(拍手)